

# 九州がんセンター外来タイムス 7月号

国立病院機構九州がんセンター

平成27年7月1日発行

(2ヶ月に一度発行します。)

## 九州がんセンター外来タイムスについて

・当院では、広報活動のひとつとして外来などに来院された患者さん、ご家族の皆様に広く当院の情報や医療の情報などについてお知らせするため、5月より本誌を発刊いたしております。

お気軽にお取りいただき、御拝読いただければと考えております。

なお、本誌の中に患者さんのコーナーも設け、皆さんからの俳句や川柳などもご紹介したいと考えておりますので、遠慮なくご投稿ください。投稿方法については裏面にてお知らせいたします。



## 当院の医療機器及び検査システムについてのご紹介

・皆さんご存じでしょうか、当院の検査システムは他の医療機関では外部に検査の委託を行っているものを自院にて検査することができます。そのようなことから、外部に委託すれば数日かかる検査の結果が採血当日1～2時間程度で得られるようになっています。

正確なデータを迅速に得ることができるため、当院では患者さんに的確な医療をご提供することができます。

・当院の臨床検査科は、日本臨床検査技師協会から、正確な検査が実施されていると認証されており、また日本医師会精度管理にも例年参加し高い評価を得ています。

検査システムには、CEA、AFP、PSA、CA15-3、PIVKA-II、シフラ、IL-2などの腫瘍マーカー10項目を院内にて検査しています。白血球や貧血などを検査する自動血球装置2台、またASTやALTなど生化学検査機器2台、さらに感染症や甲状腺、微生物検査も行っています。

特に、輸血検査については絶対的に安全な検査を行っており、細胞移植にも携わっています。

その他、乳腺の超音波検査や腹部超音波、循環器超音波を行っています。



## 七夕について

七夕について述べさせていただきます。

七夕伝説の起こりは中国であり、元来、中国の織女（しょくじょ）牽牛（けんぎゅう）の伝説と、裁縫の上達を願う乞巧奠（きこうでん）の行事が混ざり合って伝えられたものといわれています。

では、織女牽牛伝説をご紹介します。

むかし天帝という神様が星空を支配していた頃、天の川の西岸に、織女という天帝の娘が住んでいました。織女は機織り（はたおり）が大変上手で、彼女が織った布は雲錦と呼ばれ、色も柄も美しく、丈夫で着心地も軽い素晴らしいものでした。

一方、天の川の東岸には、牛飼青年、牽牛が住んでおりました。牽牛は、毎日、天の川で牛を洗い、おいしい草を食べさせたりと、よく牛の面倒をみる働き者でした。

天帝は、くる日もくる日も、働いてばかりいる娘を心配して、娘の結婚相手を探すことにしました。そして、天の川の向こう岸に住む牽牛を見つけ、2人を引き合わせ結婚しました。

ところが、一緒に暮らすようになると、2人は朝から晩まで天の川のほとりでおしゃべりばかりをしています。これを見た天帝は、2人に働くように戒めるのですが、いつになっても仕事をしませんでした。業を煮やした天帝は、2人を引き離し、1年に1度、7月7日の夜だけ天の川を渡って会うことを許したということです。この話が現在も伝説として伝えられています。



## 頭の体操コーナー

•ここからは頭の体操を行うコーナーです、是非参加してみてください。

（初級編）

- 1、かけたり、たったり、つぶしたりするものは何ですか？
- 2、黒い犬と白い犬がいます、おとなしく全く吠えない犬はどちらですか？

（中級編）

- 1、1日には2回、1年には1回しかないものとは何？
- 2、知らんぷりして食べるパンは何？
- 3、9つの色があるという食事はさて、それは何？

•初級編、中級編と回答できましたでしょうか。

回答は本誌の下の方にありますのでご覧ください。

本誌の冒頭でも申し上げましたとおり、皆さんからの俳句や川柳などもご紹介したいと考えておりますので、遠慮なくご投稿ください。投稿方法については、当院の外来師長にご提出いただければ幸いです。皆様方のご投稿をお待ちしております。

解答（初級編1 時間、初級編2 黒犬（黙す）、中級編1 ち、中級編2 むしパン、中級編3 給食）